

ならやまプロジェクト 自然誌シリーズ②

ならやまの昆虫



ならやまの

四季の昆虫

写真と解説

菊川 年明

奈良・人と自然の会
ならやまプロジェクト

編集 古川祐司

ならやまには・・・

たくさんの種類の昆虫が棲息していますが、その中からよく目にする１００種の昆虫を選び、出現する季節順に並べました。

しかし、春に出現するとして取り上げた昆虫でも、秋あるいは初冬まで活動する昆虫も少なくありません。また、夏のところに加えた昆虫でも春から活動しているものがたくさんいます。

同一種でありながら雌雄で色彩や形態の異なるもの、春秋二季の活動を示したものの、幼虫を示したいものなどについて複数の写真を添えましたので、写真の点数は１００葉を少し超えています。

では、ご一緒に観ていきましょう

..... 春

早春・・・

春真っ先に姿を現すのは成虫で越冬していた昆虫たちです。

春の到来を待ちわびていたと思います。

よく目につくのはチョウ類で、春とは名ばかりの早春の寒い頃でも陽だまりで翅をいっぱい開いて日光浴をしている姿をよく目にします。

ルリタテハ、アカタテハ、キタテハ、ムラサキシジミ、キチョウ
ウラギンシジミ、テングチョウ などです。

ウラギンシジミの翅の表面の色彩は、雄は朱色、雌は青色です。



ルリタテハ



アカタテハ



キタテハ



ムラサキシジミ



ウラギンシジミ



キチョウ



テングチョウ

ナナホシテントウ、イタドリハムシなどは
草の根本などで越冬していて、春早くから活動を
始めます。



ナナホシテントウ



イタドリハムシ

3月下旬頃から……

順次蛹や幼虫で越冬していたチョウが現れます。

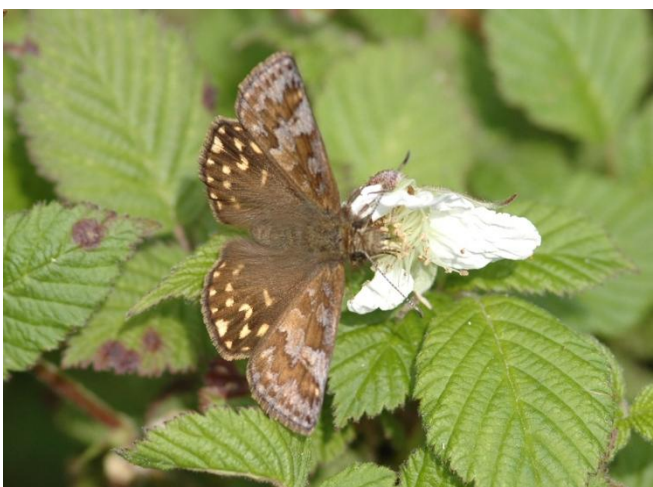
モンシロチョウ、モンキチョウ、ミヤマセセリ、ヤマトシジミ、
ベニシジミ、ツバメシジミ、アゲハチョウ、キアゲハ などです。



モンシロチョウ



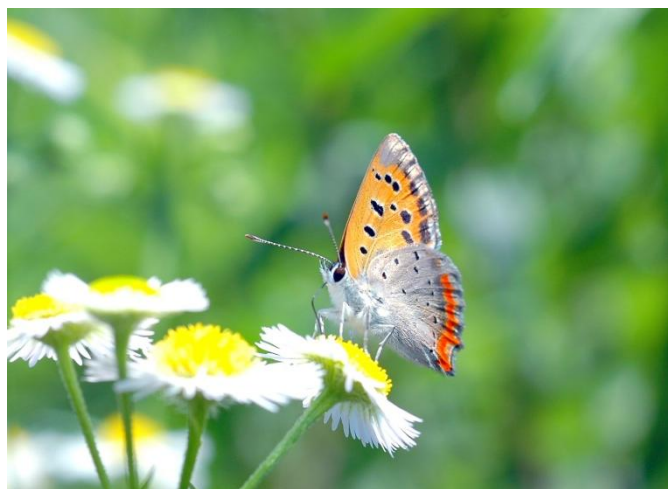
モンキチョウ



ミヤマセセリ



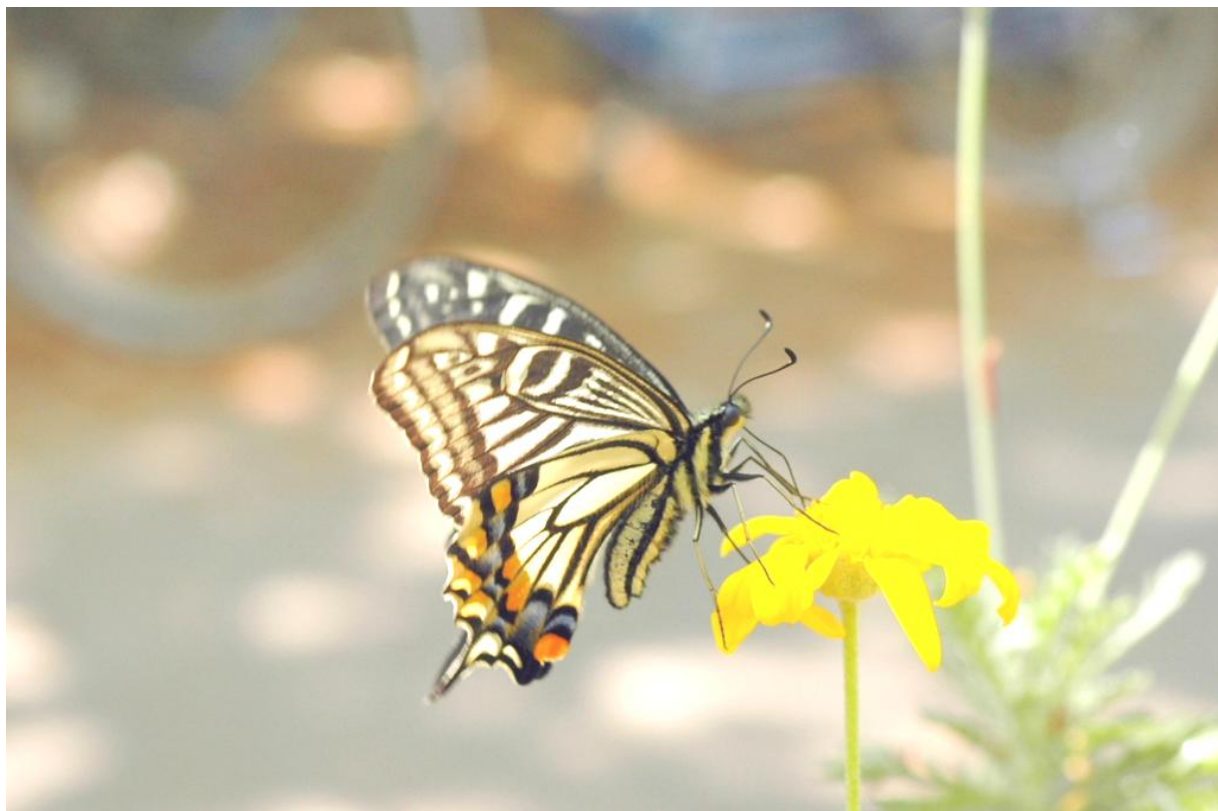
ヤマトシジミ



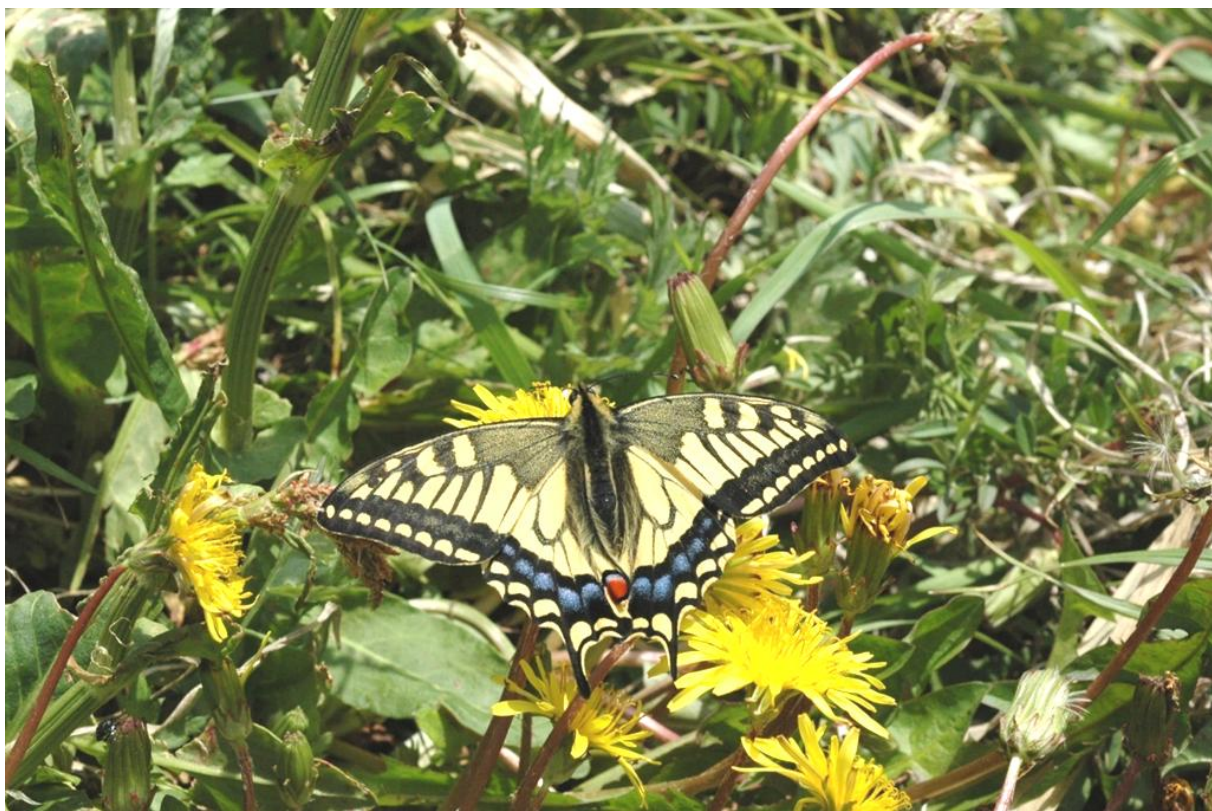
ベニシジミ



ツバメシジミ



アゲハチョウ



キアゲハ

セイヨウミツバチ、ハナアブ、オオハナアブ
などのハチやハナアブ類も春早くから花にやってきます。



セイヨウミツバチ



ハナアブ



オオハナアブ

少しすると . . .

ツマキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、トラフシミ
などのチョウが現れます。

ツマキチョウはモンシロチョウを少し小さくしたくらいの大きさで、前翅の先端に雄はオレンジ色、雌は褐色の紋様のある可憐なチョウです。飛んでいるときには白く見え、モンシロチョウと紛らわしいので、気付かれないことが多いようです。出現期間も短いのです。



ツマキチョウ



ヒメウラナミジャノメ



トラフシジミ

春も たけなわになると ……

クロハナカミキリ、アカガネサルハムシ、クロボシツツハムシ 等の甲虫が現れます。



クロハナカミキリ



アカガネサルハムシ



クロボシツツハムシ

コサナエ などサナエトンボ、

ホソヘリカメムシ、ナガメ などの カメムシや



コサナエ

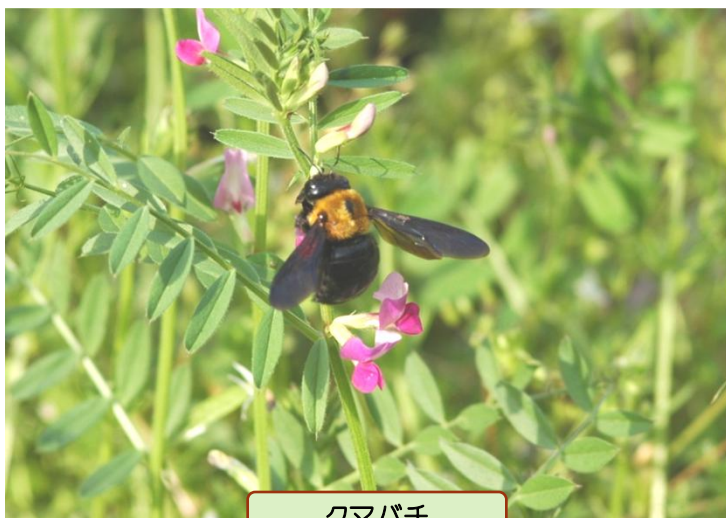


ホソヘリカメムシ



ナガメ

クマバチも現れます。



クマバチ

コミスジ、ホシミスジ、アサマイチモンジ、
ジャノメチョウなどのチョウも出てきます。



コミスジ



ホシミスジ



アサマイチモンジ



ジャノメチョウ

花には、ヤブキリの幼虫が花粉を食べている姿も見られます。



ヤブキリの幼虫

初夏に近くなると・・・

花の上に甲虫類の

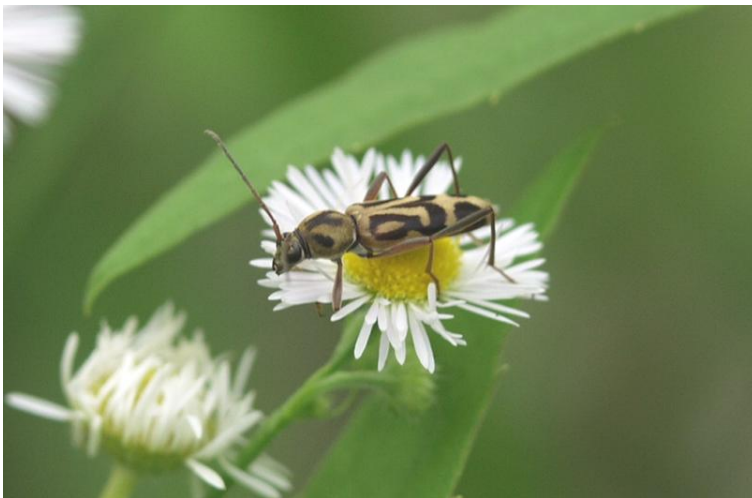
ベニカミキリ、コアオハナムグリ、タケトラカミキリ、



ベニカミキリ



コアオハナムグリ



タケトラカミキリ

ヨモギなどキク科植物に キクスイカミキリ、

クヌギやコナラの葉に ヒメクロオトシブミが見られます。



オトシブミ類は木の葉を包み込むように器用に巻いて、その中に産卵します。

「オトシブミ」という名前の由来は

「落とし文」からで、これは昔、公然と言えないことを書いてわざと道に落としておいた文書のことです。

オトシブミの作る木の葉の包みが、あたかも

「落とし文」に似ているところから名付けたのだそうです。

..... 夏

昆虫の世界は大変にぎやかになってきます。

初夏になると . . .

ハラビロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、
ショウジョウトンボ、モノサシトンボ、サラサヤンマ、などの
トンボ類が現れます。



ハラビロトンボ ♀



ハラビロトンボ ♂



オオシオカラトンボ ♂



シオカラトンボ ♀



オオシオカラトンボ ♂



オオシオカラトンボ ♀



ショウジョウトンボ ♂



モノサシトンボ



サラサヤマ

クワの木には . . .

クワコ（ガ）の幼虫が見られます。

クワコというのはカイコの祖先に当たる昆虫です。遠い昔の中国でクワコを改良してカイコが作られたと言われています。今でもクワコとカイコの間で繁殖が可能な子孫を作ることができるそうです。

クワコは幼虫・成虫ともにカイコの姿によく似ていますし、繭も薄いですが似ています。しかし、カイコガは飛べませんがクワコは飛ぶことができます。



クワコ 幼虫



クワコ 繭



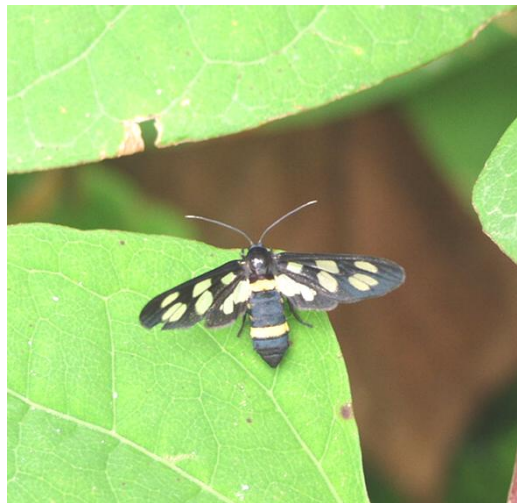
クワコ 成虫

— 初夏 （続き） —

ミズイロオナガシジミ、カノコガ、シロコブゾウムシ、マメコガネ、
キボシカミキリ、クワカミキリ など見られます



ミズイロオナガシジミ



カノコガ



シロコブゾウムシ

マメコガネの食草は、基本的にはマメ科植物ですが、
それ以外の植物も食草にしています。



マメコガネ

このムシはわが国からの輸出品に紛れてアメリカへ渡り、
彼の地でジャパニーズ・ビートルと名付けられて豆類の
大害虫になり、大の嫌われ者になっているそうです。
発見されてのは1916年(大正5年)です。

キボシカミキリ と クワカミキリ は、
ならやまではクワの木にいます。



キボシカミキリ



クワカミキリ

本格的な夏が訪れると……

カブトムシ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、
コクワガタ などの大物スターが現れます。



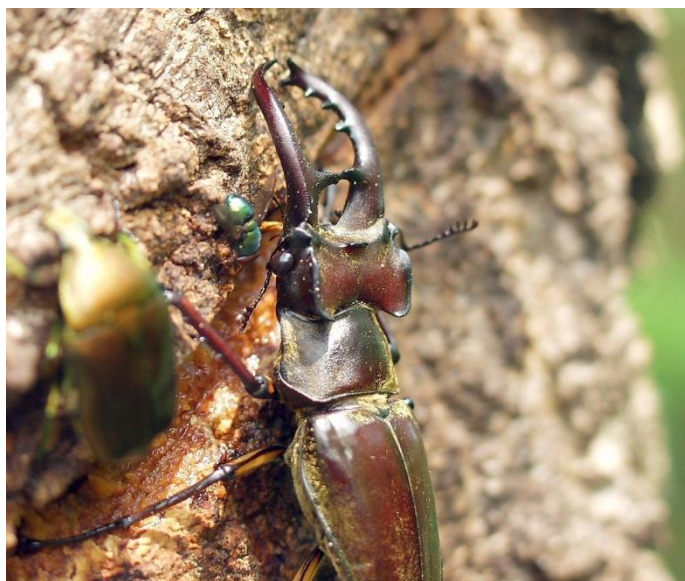
カブトムシ



ノコギリクワガタ



コクワガタ



ミヤマクワガタ ♂

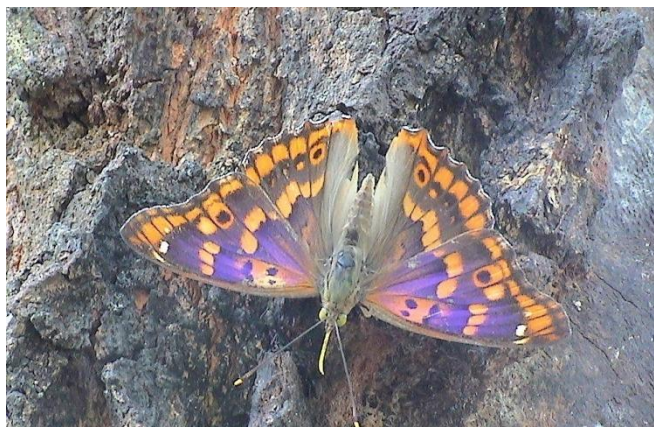
クヌギやコナラの樹液の出ているところには、彼等のほかに
カナブン、オオスズメバチ、コムラサキ、ゴマダラチョウ、
サトキマダラヒカゲなども集まります。



カナブン



オオスズメバチ



コムラサキ



ゴマダラチョウ



サトキマダラヒカゲ

— 夏 （続き） —

花にはイチモンジセセリ、キマダラセセリなども来ます。

草むらではキリギリスが鳴き出します。

地面の一隅では、センチコガネも活躍しています。



イチモンジセセリ



キマダラセセリ



キリギリス



センチコガネ

トンボ たちも …

この頃になると空中を悠々と遊弋するトンボ類が現れます。

ギンヤンマ、ウチワヤンマ、コシアキトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ

などです。 時には オニヤンマ も現れます。



ギンヤンマ ♀



ウチワヤンマ



コシアキトンボ



チョウトンボ



ウスバキトンボ

セミも・・・

ニイニイゼミを皮切りにアブラゼミ、ヒグラシが鳴き始めます。
ときにクマゼミ、ミンミンゼミも鳴いています。
夏が終わり近づくにつくつくボウシが鳴き出します。



ニイニイゼミ



アブラゼミ



ヒグラシ



つくつくボウシ

夏の最中には・・・

タマムシ、ウバタマムシ、ベッコウバチ、セグロアシナガバチ、

オオモンクロベッコウ、シオヤアブ、アオスジアゲハ、ヒカゲチョウ

などが活躍します。

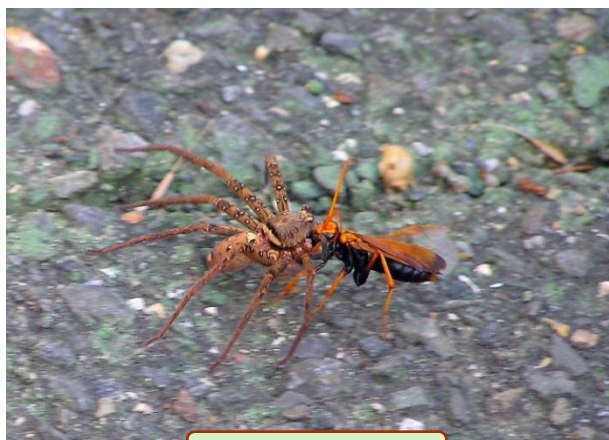
ベッコウバチは幼虫のエサ用に大きなクモを狩ることで有名です。



タマムシ



ウバタマムシ



ベッコウバチ



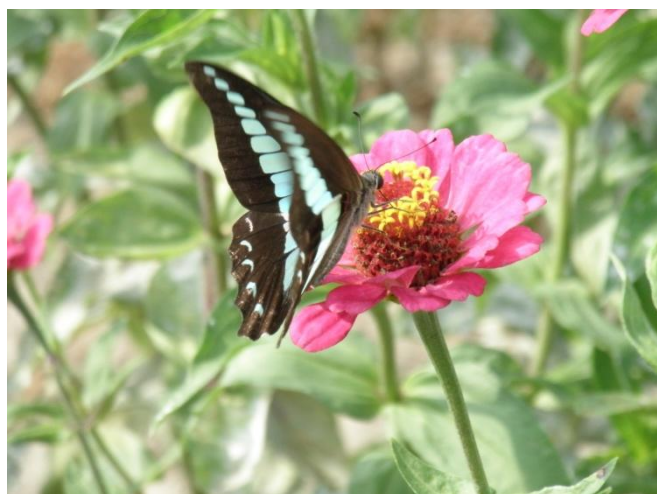
セグロアシナガバチ



オオモンクロベッコウ



シオヤアブ



アオスジアゲハ



ヒカゲチョウ

夏の終わりが近づく頃

ササキリ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタなどが現れます。



ササキリ



ショウリョウバッタ



トノサマバッタ



ショウリョウバッタ ♂ 褐色型

キリギリス類やバッタ類には同一種でありながら緑色のものと褐色のものがある種類があり、両方の色が斑になっているものもあります。

バッタ類は緑色・褐色いずれも保護色のため草むらにいたるとなかなか見つかりません。

バッタ類は概して雌の方がかなり大きいのですが中でもショウリョウバッタの雌は雄に比し極端に大きく、普通に見られるバッタの中では、体長は最大です。

..... 秋

秋は、鳴く虫から始まります。

エンマコオロギの鳴く声は、スズムシやマツムシに劣らない美声です。

エンマコオロギは、地面にいるコオロギの中では体がずば抜けて大きいのですぐにわかります。名前の由来は、顔が地獄の大王「えんまさま」に似ているからだそうです。



秋は アカトンボの季節 でもあります。

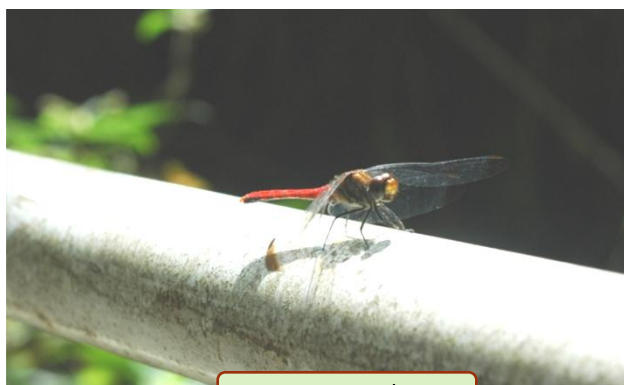
ナツアカネ、アキアカネ、リスアカネ などが現れます。



ナツアカネ



アキアカネ



リスアカネ

アキアカネは7月にならやまのビオトープで成虫が発生し、少しの間見ることができますが、すぐに遠い山の上へ避暑に行ってしまいます。再び里に下りてくるのは10月になります。

アカトンボ類（アカネ属）は初め赤色も淡色ですが秋の深まりとともに赤みを増し、雄の腹部（尾状の部分）は真っ赤になります。

全身が真っ赤になるのはナツアカネの雄です。ショウジョウトンボの雄も全身が真っ赤ですが、アカトンボ類＝アカネ属ではありません。

— 秋（続き） —

田圃では

コバネイナゴもたくさん発生します。

イナゴはわが国昆虫食の代表格のムシです。



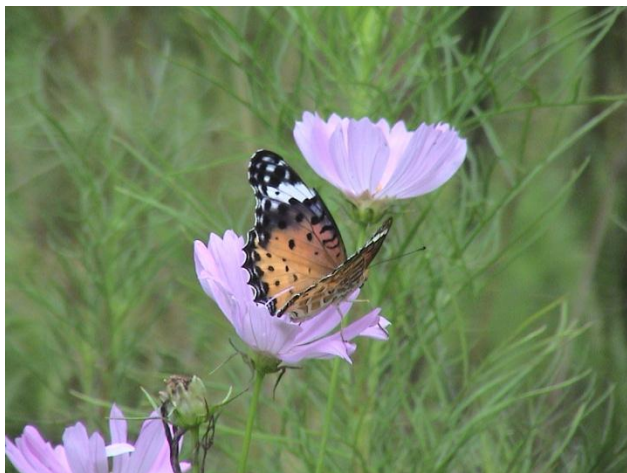
コバネイナゴ

花には . . .

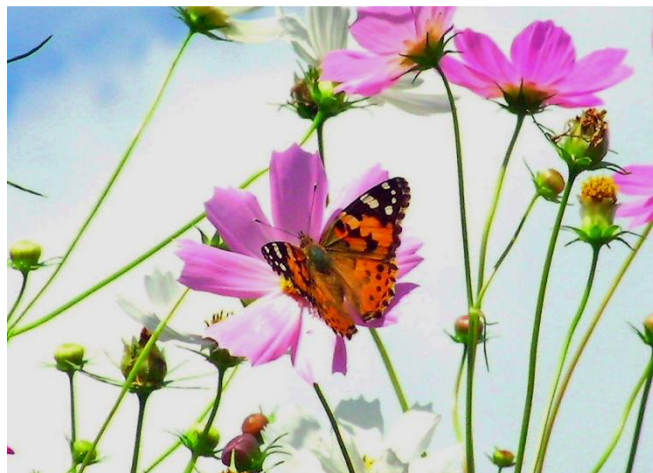
ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、アサギマダラ、キタテハなどがやって来ます。

ツマグロヒョウモンは、翅の端を着物の褙（つま＝和服の裾端）に見立てて、そこに黒い部分があることからの命名ですが、翅に黒い部分があるのは雌だけで、雄にはありません。

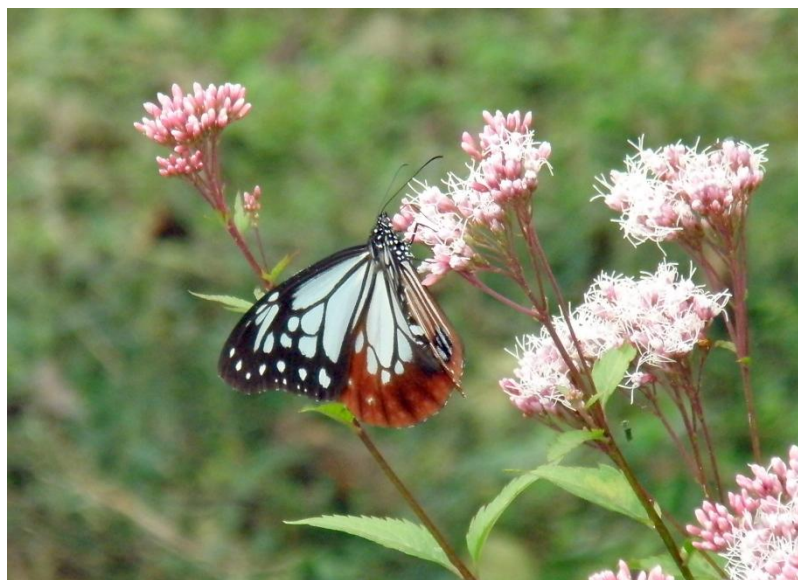
アサギマダラはフジバカマやヒヨドリバナを特に好みます。アサギマダラは渡りをするチョウとして有名で、本州から遠く南西諸島方面まで移動しているようです。このことは実証されています。



ツマグロヒョウモン♀



ヒメアカタテハ



アサギマダラ



キタテハ

晩秋になると……

アカタテハ、クロコノマチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミなどが花以外の場所でよく見られます。

これらのチョウはすべて成虫で越冬するチョウですから、越冬場所を探していることもあると思います。

クロコノマチョウは、翅の裏面が枯れ葉のような色彩をしており、そのことを知ってか、薄暗い林中の落ち葉の上で静止していることが多いので、なかなか見つかりません。



アカタテハ



クロコノマチョウ



ムラサキシジミ



ウラギンシジミ

..... 冬

冬季のならやまでは、

昆虫を目にすることはほとんどありません。

それでも里山の林中に入るとフユシャクの一種のクロスジフユエダシャク（ガ）がたくさん飛ぶのを見かけることがあります。

フユシャク類は、翅を持っているのは雄だけで、雌には翅がありません。昆虫としては非常に奇態な姿です。雄は雌のガを求めて飛び回ります。雌に翅がないのは寒さを少しでも防ぐために体温の発散を少なくするチエだと説明されています。

条件の悪い寒い冬を選んで繁殖行動をするのには、例えば天敵がいらないなど、それなりの理由があると思いますが、不思議なことです。



クロスジフユエダシャク ♂

— 冬 （続き） —

朽ち木の中では・・・

オオオサムシ や オオスズメバチ が冬ごもりをしています。

越冬するオオスズメバチは女王蜂になる個体だけで、既に交尾を終えて、翌春の繁殖に備えて寒い冬を耐え抜きます。

春になると女王蜂は独りで巣作りをし、産卵し、幼虫を育て、子が成虫（すべて雌）になると彼女等に助けられて巣を大きくし、ファミリーを増やしていきます。

朽ち木や土中などでは、そのほかにもたくさんの昆虫が潜んでいて、春を待っています。



オオオサムシ



オオスズメバチ（女王蜂）

ならやまの
四季の昆虫

終

